

WRV NEWS LETTER

WILDLIFE RESCUE VETERINARIAN ASSOCIATION

特定非営利活動法人 野生動物救護獣医師協会

No.75

2010.12.25 発行



野生動物救護獣医師協会は、保護された傷病野生鳥獣の救護活動を通じて市民の野生鳥獣保護思想の高揚をはかるとともに、地球環境保護思想の定着化を目指しています。そのために、常に世界の情勢を学び、会員相互の連絡、交流を行い、治療、研究および知識の普及をはかり、社会に貢献していくことを目的としています。

No.75 目次

大阪野生動物リハビリテーター養成講座の開催	2-4
平成 22 年度 野生動物救護獣医師協会講習会 開催報告	5-7
「第 4 回コウノトリ未来・国際会議」他 参加報告	8-10
寄稿写真のご紹介	11
寄付のお礼	12
事務局日誌	12

大阪野生動物リハビリテーター養成講座の開催

WRV大阪支部 支部長 中 津 賞

獣医師で一次治療の終わった野生動物の一部は、現在まで保護飼養ボランティアに預託されて、看護あるいは介護を受け、獣医師の許可を得て放野していた。大阪府では、全てのボランティアは当法人が養成して、既に100名を超えている。こうした現行のボランティア制度は受け身的で、負担ばかりが重くて、余りやりがいのある活動ではない様に思う。そして行政職員は内規や条例で救護対象外の野生動物(外観上異常のない個体、巣立ち直後の若鳥、カラスやドバト等の駆除対象の動物)の救護要請があった場合には出動できないでいる。こうした事態を打開するために、NPO 法人“野鳥の病院”では、講習会を修了した者が行政から野生動物の捕獲と収容の許可を得て現場に出動し、捕獲収容、救急処置をして、救護ドクターに運ぶ野生動物ハビリテーター制度を新たに確立したい。あらゆる現場に対応できる様に実習に力点を置いた講座となっている。訓練された一般市民が野生動物保護活動に積極的に関わっている事実を見た市民に、自分たちも出来るのではないかとこのボランティア活動の機運を盛り上げ、社会教育上も有益であるとの思いで本講座を企画した。

<活動の内容>

1 野生動物の看護技術講習会(初級編)

- ・ 10月31日 大阪ペピイ動物看護専門学校 10時～17時

2 野生動物の看護技術講習会(応用技術編)

- ・ 11月14日 大阪ペピイ動物看護専門学校 10時～17時

3 油汚染水鳥救護技術講習会

- ・ WRV 基準に準拠して、50分1単位で4単位の座学、2単位の実習
12月19日：13時～17時と12月20日：10時～17時



4 海岸線探索法講習会(ビーチセンサス法)

- ・ 11月23日 大阪南港野鳥園 10時～16時

5 府民への対応(電話対応を含む・会話マナー)および獣医師法と関連法規講習会

- ・ 日時未定

<実 習>

救護技術に関する1単位50分の実習を20単位課する。年度末の3月末日までに修了することを目標とする。

この実習は設立母体の中津動物病院で、自由出席性で単位認定し、規定単位に達した者に修了証を発行し、野生動物リハビリテーターとして大阪府に登録することを目指す。

番号	【実習項目】	【実習内容】
1	捕獲と輸送	ヒトの安全確保と確実な捕獲
2	動物種の鑑別	食性との関連性を理解
3	安全な保定法	ワシタカ、サギ、鳴禽類
4	身体検査法	視診、聴診、触診、打診
5	現場での応急処置法	消毒法、創傷縫合法
6	現場での稟告聴取法	原因究明に繋がる聴取法
7	安全な輸送法	ケージの大きさ、温度管理
8	容態の安定化法	加温、電解質とカロリー補給
9	消化器／呼吸器の構造	呼吸を妨げない保定の理解
10	食性と餌の選択	餌の多様性の確保
11	流動食の選択と調整法	食性に合った流動食の選択
12	鳥種別強制給餌法	糞便検査、給餌効果の判定
13	伝染病と防護法	感染症の理解
14	伝染病検査と採材法	鳥インフルと西ナイル病
15	骨折の症状と固定法	骨折部位による症状の変化
16	リハビリテーション技術	翼と脚のリハビリテーション
17	日本産カメの管理法	イシガメ、クサガメ
18	保護飼養期間	1ヶ月以内という制限の理解
19	保護飼養カルテ記載要領	再発防止に繋げるためには
20	放鳥獣時の身体検査要領	標準体重の理解と飛行能力

単位認定カードに修得単位毎に押印する。

全ての単位修得者に達成度を確認するために最終試験を課する。

80点以上の得点者を合格とする。

合格者には野生動物リハビリテーターの認定証をNPO 野鳥の病院から授与する。

<認定の要件>

認定にあたっては次の要件をすべて満たしていることが必要です。

(ア) 大阪府在住であり、18歳以上であること。

(イ) 講習会及び実習を修了し、最終試験に合格していること。

(ウ) 野生動物の保護に関心が高く、責任を持って誠実に救護活動が行えること。

(エ) 「鳥獣の保護及び狩猟の適正化に関する法律」、獣医師法等の関連法令を遵守できること。

(オ) 自宅等で看護、野生復帰訓練する場合には、近隣住民に対し悪臭、騒音等の被害を発生させる恐れが無いよう飼養すること。

(カ) ボランティア保険に加入すること。

<活動経費>

野生動物リハビリテーターとしての活動に伴う経費（自宅等で看護、野生復帰訓練する場合の餌代および経費、現場までの交通費、ボランティア保険料等）は、自己負担となります。

<再認定>

2年に1回、再認定の書類をNPO法人「野鳥の病院」に提出して認定を受けて、大阪府に再登録する事。

ちなみに10月31日の初回の講習会の詳細は以下の通りである。

◎傷病鳥獣保護飼養ボランティア養成講習会

(大阪府と共催：この講座のみの参加も可能で、参加費無料)

◆10月31日 ペピイ動物看護専門学校 3階 3d教室

・午前10時開講

あいさつ：NPO 野鳥の病院 代表理事 獣医師 中津 賞

野生動物リハビリテーター制度について

・午前10時10分～10時55分

大阪府野生動物愛護グループ担当職員 橋本獣医師

①大阪府における野生動物救護の現状 ②野鳥の捕獲／保護にかかる法律的知識

・午前11時～11時30分

大阪府登録野生傷病鳥獣保護飼養ボランティア 稲森郁子氏

野鳥保護飼養ボランティアとしての活動報告

・午前11時30分～12時

日本野鳥の会大阪支部 副会長／大阪府鳥獣保護員 橋本 正弘氏

大阪府下で救護が予想される鳥について

◎昼食休憩：昼食は各自用意

・午後1時～2時30分

「ハトを徹底的に知ろう」鳥の飼育管理法：講演 勝川 千尋博士

- 勝川博士は大阪府立公衆衛生研究所の感染症部細菌課の主任研究員の傍ら、レースバトの育種改良に取り組んでおられます。獣医師が遭遇する感染症の診断にいつも指導をいただいています。

内容：野生のキジバト等のハト類を保護した場合の飼い方、餌や水の与え方、飼育環境、衛生管理(糞の取り扱い、飼育ケージの消毒法等)、生体／生態観察の要点、雌雄の気性の違いや、闘争性について、レースバト飼育から推察できるキジバト、ドバトの自然界での繁殖の様子、伝染病の話と予防と飼育者の感染予防等について

・午後2時40分～4時

野鳥の救護の基礎技術 講師： NPO 野鳥の病院 代表理事 獣医師 中津 賞

野鳥写真カード(野鳥の名前を覚えよう)、餌の種類、病院食の種類、保定法、ハトの給餌法(カテーテル法、固形物の給餌)

※参加獣医師には採血のための保定法と採血、鳥における血液検査項目とその意義

◎懇親会：午後4時～ (45分程度)

以上の様な講座を開催しています。本年度の登録は締め切りでしたが、来年以降も開催して行きたいので、御参加をお願いします。

NPO 法人 野鳥の病院 代表理事中津 賞(なかつ すすむ)
中津動物病院 院長 獣医師 獣医学博士
野生動物救護獣医師協会(WRV)-大阪支部長
日本野生動物医学会・評議員
大阪ペピイ動物看護専門学校講師

平成 22 年度 野生動物救護獣医師協会講習会・開催報告

WRV事務局 箕輪 多津男

去る10月9日（土）に、ホテルローズガーデン新宿・ローズルームにて「野生動物救護獣医師協会講習会」（WRV東京都支部・主催、WRV本部・共催）が例年通り開催されました。

参加者は約50名に上り、今回は講習のテーマが「外来動物問題」ということもあって、東京都鳥獣保護員の方々が特に大勢出席されました。

当日は、まず来賓として、東京都自然環境部計画課・鳥獣保護管理担当主任の竹内高広氏よりご挨拶を頂戴した後、WRV東京都支部長も兼務している新妻勲夫会長より、講習会を開催するにあたっての主旨、および昨今の野生動物救護事業に関わる諸情勢等についての解説が述べられました。



WRV・新妻勲夫会長



東京都・竹内高広氏

そして、今回のメインとなるご講演を、日本獣医生命科学大学・獣医学部野生動物学教室准教授の羽山伸一先生より賜りました。タイトルは「外来動物問題と対策」ということで、これまでの長年に渡るご経験と、現在取り組んでおられる諸研究および様々な対策事業等に関する知見をもとに、具体的かつ臨場感あふれるお話しをいただきました。

その中でまず、在来の生態系や自然環境、そして生物多様性を、今最も脅かしているのがまさに「外来生物問題」であることが強調されました。外来生物とは、野生生物の本来の移動能力を超えて、人の手によって移動させられ、それが何らかの形で生態系に放たれてしまった生物のことを指し、その成行きは全責任は私たち人間が負うこととなります。従って現状を放置することはできず、その対策に関してはどれ程困難を極めようとも、何らかの形で常時取り組んでいくことが求められるわけです。



講師：羽山伸一先生

こうした前提のもと、外来動物による影響被害の実態や、その対応についての具体的な取組みに関して、先生より国内外の事例がいくつも紹介されました。

うち、海外の事例としては、米国領・グアム島におけるミナミオオガシラと呼ばれる大型の蛇が持ち込まれたことによる、グアムクイナを絶滅に追いやるなどの生態系破壊や、オーストラリアや同国のタスマニア島に持ち込まれたキツネ、あるいはガラパゴス諸島に持ち込まれたイエネコ等による、在来生物への大打撃の実態など、各地で深刻な状況に陥っていることが解説されました。同時に、それぞれのケースにおける関係者の懸命な対策の推進についても披露されました。

一方、国内の事例としては、沖縄や奄美諸島に移入されたジャワマングースによる、絶滅危惧種でもあるヤンバルクイナやアマミノクロウサギ等に対する脅威や、当初北米から持ち込まれ、今や国内すべての都道府県に分布を広げてしまったアライグマによる在来種および在来生態系に対する影響や侵略をはじめとして、タイワンザルやアカゲザル、ブラックバス、外国産クワガタムシ等々、実に様々な外来動物によって、日本国中の生態系や生物多様性が蝕まれてしまっている現状が改めて浮き彫りにされました。そうした問題に関する対策についても、地域差がかなり有りながらも、それぞれの現場で取組まれているようです。中でも実績を上げられた例として、長崎県対馬におけるツシマヤマネコの移動トンネルを確保すること等による交通事故（ロードキル）回避への取組みや、小笠原諸島における海鳥等の繁殖地や在来動物を守るためのイエネコの捕獲、および東京都獣医師会に所属する開業獣医師の方々が、それらを里親として引き受ける活動など、内外関係者の努力と協力によって初めて実を結んだ様子が生き活きと伝えられました。

外来動物問題は、私たちがこれからも延々と取組んでいかなければならない大問題ということになりそうですが、外来ペットに関する規制の強化を始めとして、今後はできる限り新たな外来動物を増やすことがないよう努力するとともに、現状に対しても、在るべき本来の生態系や生物多様性の姿を念頭に置きながら、官民の協力のもと何らかの手を打っていくことの大切さを、参加者一同が改めて認識させられるご講演でありました。

続いて、環境省野生生物課鳥獣保護業務室・狩猟係長の刈部博文氏より、「野生動物に関する行政の対応について」と題してご講演を賜りました。



講師：刈部博文氏



そこでまず、鳥獣保護業務室がちょうどWRVが運営を委託されております環境省水鳥救護研修センター（東京都日野市）を管轄していることから、油汚染等による海

鳥を始めとする汚染被害鳥獣の救護に纏わる諸事項を解説していただきました。中で、過去から現在に至る国内外の油汚染事故事例や、国家緊急時計画をもとにした、環境省および地方自治体を中心とする油汚染事故対策に関わる体制の整備等について、一連の作業の流れを見渡しながらお話しいただきました。

続いて、鉛中毒を始め、その他の一般的な傷病鳥獣の救護に関する経緯と現状について説明していただきました。その中で特に、行政と獣医師、あるいは鳥獣保護員様々なボランティアの方々の協力が、いかに大切であるかが強調されました。

そして最後に、西表自然保護官事務所を始め、それまでに自然保護官として赴任された国立公園の現場における経験談と、今後につながる課題や目標を披露いただき、ご講演をしいただきました。ソフトで分かりやすい語り口と内容でしたので、参加された方々も皆、親近感をもって熱心に耳を傾けていたようでした。

WRVの皆川康雄副会長による閉会挨拶をもって一連の講演日程が終了した後、部屋の模様替えがあり、同会場での懇親会に移りました。久方ぶりに再会された関係者もおられたりして、和気あいあいとした雰囲気の中に時間が過ぎましたが、講師を務められた羽山先生と刈部氏にもご参加いただいたこともあり、それぞれのテーブルにおいて、具体的な意見交換なども活発になされていたようでした。会の途中では、WRV神奈川支部長も兼務されている馬場国敏理事から、神奈川県のリハビリテーター養成事業に関わる重要な話題を提供いただいたり、また、今回岐阜県からわざわざお越しいただいた石黒利治先生からも、興味深いお話をご披露いただくなど、参加者にとっても有意義な一時になったものと思われまます。



馬場国敏理事



石黒利治先生



終わりに、講師としてご講演を賜りました羽山伸一先生と刈部博文様を始め、ご協力をいただきました東京都自然環境部計画課の方々、そしてご参加いただきました東京都鳥獣保護員やWRV会員を始めとするすべての方々に対し、改めて厚くお礼申し上げます。

「第4回コウノトリ未来・国際会議」他 参加報告

WRV事務局 箕輪 多津男

去る10月30日(土)～31日(日)に、兵庫県豊岡市において「第4回コウノトリ未来・国際会議」が開催されました。1994年に第1回が開催されて以来、およそ5年に1回の割合で開かれている同会議ですが、今回も縁あってこれまで通り参加してまいりましたので、周辺イベントも含めここで改めてご報告させていただきます。

まず、その前日(29日(金))に開催されました、「コウノトリの生息地を広げる市民かいぎ」について、少しだけ触れておきたいと思います。

これは、地元豊岡市のコウノトリ生息地保全協議会の呼び掛けにより、かつてのコウノトリの生息地であった福井県小浜市や越前市を始め、近年放鳥された個体が舞い降りた岡山県倉敷市や愛媛県西予市など、各地域でコウノトリの生息環境を整える活動等を展開している市民グループが一堂に会して、それぞれの活動報告、および意見交換等を行うというイベントでした。



2005年に初めて放鳥されて以来、大陸から飛来した野生の1個体を含めて、今では44羽の個体が豊岡市を始め、日本の各地の空を舞っております(飛来地は既に26府県に及ぶ)。今後は徐々に、単に豊岡市のコウノトリというばかりでなく、日本のコウノトリへと移行していくことが予想されますので、それに合わせ、今から市民レベルの全国的なネットワークを築いていくための第一歩が、その場に刻まれることとなりました。

翌30日の午前中は、地元で行われている湿地整備の現場視察に参加いたしました。一つは、田結(たい)と呼ばれる地区の、休耕田を活用した新たな湿地を創造しているエリア(東京大学などが現地の調査・研究等に協力している)。そしてもう一つは、これも圃場整備事業に関連して数年前に新たに整備された戸島湿地と呼ばれるエリアです。因みに後者の運営は、私も正会員となっております「コウノトリ湿地ネット」という団体が請負っております。どちらも、コウノトリの繁殖場所として、また餌場として、今後ますます重要な役割を果たすべき場所と考えられておりますので、内外の関係者とも連携を取りながら地元の方々を中心に、将来に向けた取組みが進展していくことが期待される次第です。



田結地区の様子



戸島湿地の様子

30日の午後からは、いよいよ国際会議の本番へと移りました。秋篠宮殿下と同妃殿下ご臨席のもと開会が宣言され、各代表者の挨拶の後、本題へと入って行きました。

最初に、先頃、兵庫県コウノトリ郷公園の園長に就任された山岸哲先生より、コウノトリの野生個体群の確立に向けた取組みの経過と、今後の見通しなどに関する報告がありました。続いて、先に開催されたCOP10の事務局長(国連生物多様性条約)を務められているアフメッド・ジョグラフィ氏のビデオメッセージが披露され、基調講演として、TEEB(生態系と生物多様性の経済学)の研究リーダーであるパバン・スクデフ氏より、生態系や生物多様性の経済価値や人間社会への貢献を見直すことの重要性が指摘されました。また、地元豊岡市の中貝宗治市長からは、「コウノトリと共に生きる」と題して、長年に渡り地元の農業や各種企業の振興、エネルギー問題への対策、環境の整備等に絡んで、コウノトリ野生復帰事業というものがいかに重要な牽引力になったか、ということが力説されました。

休憩の後、コウノトリに纏わる各地の関係自治体の関係者(市長等)によって構成されている関係自治体会議のほうから、今後の協力体制の強化宣言がなされ、今回の会議の実行委員長である林良博先生(山階鳥類研究所長)により、1日目の内容が総括されました。

会議の2日目(31日)にはまず、タイ国内においてサイチョウ類の研究と保全活動に携わっておられる、マヒドン大学のピライ・プーンスワット教授より、その成果と現状についてのご講演がありました。タイには現在13種のサイチョウの仲間が生息していますが、その大半がIUCN(世界自然保護連合)の定めるレッドリストに、何らかのレベルの絶滅危惧種として指定されています。従って、保全活動は不可欠な状況であり、住民参加による調査や保護活動が精力的に推進されています。特に教授が中心となって、かつてはサイチョウの密猟者だった人々を説得して、現地調査や保全活動の主要メンバーとして育て上げていく様子などは、参加者に大きな感動を与えたに違いありません。



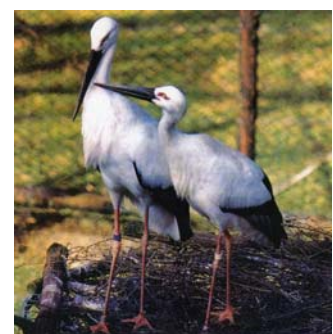
次に、前衆議院議長で、愛鳥百人委員会会長でもある河野洋平先生より、コウノトリを始め様々な野鳥に関わるご講話がありました。河野先生は、かつて日本鳥類保護連盟の会長を務められた程の野鳥通としても知られておりますので、昨今のスズメの減少傾向への懸念など、誠にタイムリーかつ愛鳥精神に溢れた興味深いお話しをいただきました。

休憩の後、今度は分科会の報告がそれぞれなされました。実は、今回の国際会議に向けて、すでに年初から各分科会ごとにワークショップ等が重ねてこられており、今回はその一連の成果報告という形がとられていた次第です。そこで、「コウノトリ分科会」からは、今後の国内におけるコウノトリの保全戦略と海外（極東アジア等）の各生息地とのネットワーク構想が、「環境創造型農業分科会」からは、生物多様性を育む農法の現状やそれに関わる日韓中の技術交流の推進が、「環境経済分科会」からは、生物多様性の保全に合致するような企業活動や経済戦略の促進が、さらに「子ども・未来分科会」からは、子供たちを中心としたコウノトリやトキ、マガンが生息する田んぼや湿地を始めとするフィールドでの実践活動の経過が、それぞれ報告されました。いずれの分科会の報告にも、その取組みに対するこの上ない熱意と、未来に向けた強い希望が感じられました。



そして、それぞれの報告に基づき、会場の参加者を巻き込んだ形での総合討論が行われた後、一連のプログラムの締め括りとして、地元豊岡市内の小中高校生の代表による「コウノトリ宣言」の発表と、満場一致による採択がなされ、会議は無事終了となりました。

今回のテーマとなったコウノトリや、あるいは現在佐渡を拠点に放鳥が進められているトキだけではなく、今後は復元生態学の考え方から、様々な動物種において、同様の野生復帰活動が展開されることになるかもしれません。しかしながらその推進にあたっては、遺伝子上の問題や生態系へのインパクトに関する観点から、いくつかの問題提起がなされているのも事実です。従って、それぞれの問題点を逐一検討しつつ、多くの関係者の協力を得ながら、これからもあるべき活動の姿を模索し続けていくことが大切になるものと考えます。読者の方々にも、こうした分野に是非関心を寄せていただければ幸いに存じます。



寄稿写真のご紹介

北海道より珍しい鳥たちの貴重な記録が寄せられましたので、改めて誌上にてご紹介させていただきます。これらの写真はすべて星子廉彰氏の撮影によるものです。



カナダヅル(手前)

撮影者：星子廉彰さん（WRV会員）
撮影場所：北海道内各地



クロツラヘラサギ



オオハクガン(ハクガンの大型亜種)



コウノトリ

※WRV ホームページ上のカラー版も是非ご覧ください。
(WRV ホームページアドレス：<http://www.wrvj.org/>)

◇お知らせ◇

2010年10月31日をもちまして、事務局の吉見裕子さんが退職されました。
これまでWRVの活動にご尽力いただき、ありがとうございました。

【 事務局より寄付のお礼 】

寄付ご協力者（敬称略）（平成22年9月2日から平成22年11月30日）

○寄付金（一般）2010.9.21 鴨下 修 8,064 円 ○寄付金（人災）2010.11.8 町田和子 10,000 円

○神奈川支部 2010.10.18 大坪路子 30,000 円

事務局日誌 2009.9.24～2010.12.25

=== 9月 ===

24：WRV ニュースレターNo.74 発行

25：東京港野鳥公園油汚染事故水鳥救護講習会 [東京都支部] 出席：新妻、大窪、皆川、箕輪

26：よこはま動物愛護フェア [神奈川支部] 対応：皆川

28：川崎市立中学校4名体験学習（野生動物ボランティアセンター）[神奈川支部] 対応：皆川

29：中島みゆきコンサート・パンフレット掲載用 インタビュー 対応：皆川、箕輪

=== 10月 ===

01～31（のべ10日）：神奈川県野生動物リハビリテーター養成講座（実践活動）[神奈川支部] 対応：馬場、皆川

06：王禅寺公園ふれあい動物園 [神奈川支部] 対応：皆川

09：野生動物救護獣医師協会 講習会 [東京都支部] 出席：新妻、皆川、馬場、小松、小森、笥、梶山、箕輪

19：県立高校8名体験学習（野生動物ボランティアセンター）[神奈川支部] 対応：皆川

19～20：第1回油等汚染事故対策水鳥救護研修 出席：新妻、須田、皆川、戸田、箕輪、梶山、吉見

24：中島みゆきコンサート・パンフレット インタビュー記事掲載 対応：皆川

24、31：油汚染水鳥救護専門獣医師スキルアップ洗浄実習（野生動物ボランティアセンター） 対応：皆川

29～31：第4回コウノトリ未来・国際会議 出席：箕輪

30：故増井光子を語る（麻布大学） パネラー：馬場

=== 11月 ===

03：青葉区民まつり [神奈川支部] 対応：皆川

06～28（のべ6日）：神奈川県野生動物リハビリテーター養成講座（実践活動）[神奈川支部] 対応：馬場、皆川

06：三浦（毘沙門）海岸清掃活動（合同共催）[神奈川支部] 対応：皆川

06～07：エコ森ワンダーパーク（金沢動物園）[神奈川支部] 対応：皆川

07：森とせせらぎまつり（野生動物ボランティアセンター）[神奈川支部] 対応：馬場、皆川

07：第7回野生動物保護セミナー in 関東 出席：須田、中津、金坂、箕輪

10：油汚染水鳥救護専門獣医師スキルアップ洗浄実習（野生動物ボランティアセンター） 対応：皆川

11～29：海ゴミGOME「ゴミの悩まされる野生動物たち」展示（合同主催）[神奈川支部] 対応：皆川

13～14：日本獣医生命科学大学「油汚染鳥救護特別実習」 出席：新妻、皆川、梶ヶ谷、箕輪

14：相模川釣り針釣り糸調査（合同主催）[神奈川支部] 対応：皆川

18：「ヒナを拾わないで!!」キャンペーン 合同報告会 出席：皆川、箕輪

19～20：第31回動物臨床医学会年次大会（グランミューブ大阪） 出席：新妻、大窪、須田

20：横浜市主催講演「横浜の野生動物について考えよう」[神奈川支部] 対応：皆川

21～29：チャリティーカレンダー展+環境ポスター展（協力） 対応：皆川

27：リハビリテーター活動がテレビで紹介 BS日テレ番組名「よい国のニュース」[神奈川支部] 対応：皆川

28：野生動物植物保全フォーラム 釣り針釣り糸調査結果ポスター発表（合同）[神奈川支部] 対応：皆川

=== 12月 ===

01：川崎市立中学校4名体験学習（野生動物ボランティアセンター）[神奈川支部] 対応：皆川

09～10：第2回油等汚染事故対策水鳥救護研修 出席：新妻、皆川、中津、箕輪、梶山

14：愛鳥懇話会 出席：新妻、箕輪

野生動物救護獣医師協会（ホームページ）<http://www.wrvj.org/> (E-mail) kyugo@wrvj.org

NEWS LETTER No. 75 2010.12.25 発行

発行：特定非営利活動法人 野生動物救護獣医師協会

事務局：〒190-0013 東京都立川市富士見町1-23-16 富士パークビル302

TEL: 042-529-1279 FAX: 042-526-2556

発行人：新妻 勲夫 編集文責：皆川 康雄